

ラーニング・サポーター ♪ 11月のつぶやき

-JWUラーニング・コモンズさくらより-

図書館 2 階 JWU ラーニング・コモンズさくら(以下「さくら」と略)では、学科・専攻推薦を受けたラーニング・サポーター(本学大学院生)が学修相談を受け付けます。学修相談以外にもミニ講座の開催や「さくら」の活動支援をしながら、感じたこと、思ったことを「つぶやき」、本学学生の皆さんに学修相談に訪れてもらいたいと思っています。ラーニング・サポーターは「さくら」で皆さんをお待ちしています！

<11月のつぶやき♪INDEX>

- p1 個性の話 @M.A.(人間発達学専攻(児童)博士課程後期3年) 11月13日 up
- p1 ほっとりんご @K.S.(日本文学専攻博士課程後期1年) 11月14日 up
- p2 私の居場所 @T.R.(英文学専攻博士課程前期1年) 11月10日 up

つぶやき1 ♪ 個性の話

学部生の頃に受けた教職(小学校)の授業で、「個性」の話が出たことがあった。スポーツなど勉強以外の何かに秀でている子どもがいたとして、『自分には得意なこと(=個性)があるから勉強なんてやる必要ない』と言われたら教員としてどうする? というのが議題だった。その時は、学歴社会で勉強を捨てるのはハイリスクだからやめたほうがいいのに…くらいにしか思わなかった。教室全体で「個性の尊重とは何か」、いろいろ意見を言い合ったが「勉強する意味」について考えていたのか、あまり印象に残っていない。私は他の選択肢を持っていない側であり、それがこれまで勉強をしてきた理由のような気がして、もやもやしつつもそれ以上言語化できなかった。

その後、アルバイトで個別指導の塾講師をしていた時、受け持っていた小学4年生の子に突然聞かれた。「こんな植木算とかやってて、大人になって役立つと思えないんだけど。なんで勉強しないといけないの?」勉強したくない(ゲームをしたい)という気持ちがあるのは事実だが、私を困らせるために言っているのではなく彼の純粋な疑問だと思ったので、「私もよくわかってないんだよね」と正直に答えた。彼の「役立つ」のイメージは「買い物ができるとか。」ということだったので、算数ができなくて死ぬことはないだろうねと言った。「でも算数やってるとき、楽しいと思うことなかった?」と聞くと「それはある。ひらめいちゃった時とか。」と言うので、算数をやめたらこれから先味わえるかもしれない、その「楽しい」も消えちゃうかもと言った。算数に限らず勉強をやめたら自分にとって楽しい「何か」に出会う可能性をなくすこと、植木算を忘れても考える力は残っているはずで、それを将来自分で役立てるしかないということ話をした。

その時に「個性」のことを思い出した。勉強しなくていいと大人が言うことが、逆にその子の「個性」になるかもしれないものを奪うのではないか。勉強させることが個性をつぶすわけではなく、教師がいかに「個性」につながる授業ができるかである。

と考えると、小4の子には申し訳なく思った。勉強が楽しいと思わせられていたら、役に立つかどうかなどそもそも気にしないよねと思ったので。

つぶやき2 ♪ ほっとりんご

気が付けば11月も半ばとなり、今年も残すところ2ヶ月を切っています。例年にない夏の暑さを乗り越えてもなお、秋とは思えない汗ばむ陽気がしばらく続きました。日頃、運動がてら近所の川沿いを歩いているのですが、先日、小さな岩の上で日向ぼっこをする野生のカメと出会いました。今年は冬が来ないのか、はたまた知らない間に春が来てしまったのか。何だか考えあぐねているように見えて、「お互いさまね」と季節外れの日傘を片手に土手の上から眺めて

**人間生活学研究科 人間発達学専攻
博士課程後期3年(児童学)**

- 経歴
本学 家政学部児童学科 卒業
本学 家政学研究科児童学専攻(修士)卒業
- 資格
保育士/幼稚園教諭/小学校教員
- 研究分野
「向社会的行動(思いやり行動)」について研究
幼稚園や小学校にて参与観察を行い、質的分析を行っています

「進路に向けて何をしよう?」
「研究テーマはどうやって決める?」
「教職は大変かな?」など…
気になっていることはありませんか。
勉強や研究のことなど、
誰かにお話したいなというときに
お気軽にお声がけください♪



いました。

このところようやく秋の気配を感じたかと思えば、冬までもがすぐそこにやってきてしまったようで、風に揺れる川沿いの草木は一気に寒々しく映ります。冬支度、いったい何からはじめればいいのでしょうか。毛布にマフラーに加湿器、ホットティーにあつあつのお鍋……。日常の中にあふれる沢山のぬくもりを集めてみたいのですが、つい先日まで日傘やアイスクリームに囲まれていたものですから、どこかしっくりこないもどかしさを感じます。街中にはクリスマスの飾りも溢れていて、季節は確かに移り変わっているはずなのに、私の気持ちは今がようやく九月の末あたり。きっとあのカメも「この岩で日向ぼっこをしたのは先週くらいのことだったのにな」なんて考えながら、大慌てで冬ごもりの準備を進めていることでしょう。

そんな慌ただしい日常の中で、心も身体もあたたまる一工夫を発見しました。その名も〈ほっとりんご〉。何のことはありません、単にりんごをレンジでチンしただけ。冷蔵庫の中にキンキンに冷えたりんごがあったのですが、外から帰ったばかりでそのまま食べる気分にならなくて、だからといってコンポートにするのはもったいなくて。そんな時にレンジでほんの30秒ほどあたたためてみたら、甘い香りと共に〈ほっとりんご〉が出来上がりました。少しの工夫で訪れた冬のぬくもり。新しい年を迎える前に、少しずつ冬の楽しみを取り入れていきたいものです。

つぶやき3♪ 私の居場所

11月に入りましたが、皆さんいかがお過ごしでしょうか。段々と寒くなってきましたね、くれぐれも体調にはお気をつけください。先日、私は少し寂しい体験をしました。5年近く務めさせていただいたアルバイト先が閉店したのです。私にとって10月は別れの季節となりました。今回はこのお話を共有しようと思います。

中学生だった頃、親友と近所のあるカフェチェーン店に新作の飲み物を求め遊びに行くようになりました。数か月後、親友と一緒に地元から電車で1時間ほどの高校へ進学しました。電車通学は私たちの行動範囲を広げ、都心にある店舗で多くの時間を過ごすようになりました。おしゃべりしたり、課題をやったり、テスト勉強したり。友人も増え、多くの大切な人たちとそのカフェで大切な時間を過ごしました。ある時から私もここでアルバイトをしたいと思うように。高校3年生の冬、日本女子大学への進学が決まってすぐ働くことになりました。周りはみんなきらきらの大学生たちで、私だけが右も左もわからない高校生でしたが、私が大好きだった空間を生み出している人たちもやはりみんな素敵な人たちでした。大学に入学し、慣れない環境に戸惑った時も、そこはいつもと変わらず暖かい私の居場所で、大学の友人たちがサークルに入っていき中一人入らなかったのは、それが経験も出会いもある場所だからです。コロナ禍で通学できず不安な毎日を過ごした時も、大学院への進学に迷っていた時も、いつもお金を稼ぐ以上に価値のある経験、楽しくて安らぎの時間を与えてくれました。そんな私の居場所が先月閉店。理由はその地域一体の再開発により、ビル建て替えを行うためです。

場所が無くなっても私が過ごした時間と出会いは無くならないため、この経験を基にまた新たな居場所を確立します。そう思うことができるような自信が今ならある気がします。ちなみにこのカフェの社名は、アメリカの作家 Herman Melville (ハーマン・メルヴィル) の *Moby-Dick or the Whale* (『白鯨』) に登場する捕鯨船の一等航海士の名前から着想を得ているそうです。

文学研究科 日本文学専攻

▶ **自己紹介**
 ・博士課程後期1年 (D1) 近代文学専攻
 ・資格: 専修免許状 (中高・国語)

▶ **研究対象**
 学部時代から引き続き、大正から昭和にかけて活躍した作家、宇野浩二の文学を研究しています。

▶ **ひとこと**
 演習授業やレポートについてはもちろんのこと、教職の模擬授業や教育実習について、大学院進学との相談など、ぜひお気軽にいらしてください!

文学研究科 英文学専攻 1年

● **自己紹介**
 所属は文学研究科英文学専攻 博士課程前期1年です。

● **研究分野**
 専門分野はアメリカ文学で、現在はアメリカ南部文学に興味があり学びを深めています。学部の卒業論文はアメリカの公立校における問題、特に進化論論争と祈りに関する議論に焦点を当て研究していました。

● **一言**
 英文学科や大学院、教職の履修についての相談はもちろん、学修に関する悩みや不安など、英文学科以外の方も気軽にご相談ください。お待ちしております。